

＜アンケートの考察（5件法）＞

☆ 平均が「4.4」以上の項目

- ・ 2 交通安全指導、生活安全指導の徹底及び安全な教育環境の整備
- ・ 11 交流及び共同学習の充実
- ・ 12 校内支援委員会の推進及び関係諸機関や家庭との連携
- ・ 18 登下校の見守り活動や学校のサポート体制の充実を目指した取組

生徒指導主事を中心に、複数の教員による迅速、かつ、慎重で丁寧な対応がトラブルの未然防止や早期発見につながった。

特別支援学級担任と、交流学級担任、支援員との連携が円滑に行われているため、充実した交流及び共同学習が実施できた。また、特別な支援を要する児童について、関係諸機関や家庭と連携し、建設的な話し合いを積み重ねることができた。それが、児童の教育ニーズに合わせた支援につながった。

民生児童委員のみなさんや、地域安全ボランティアのみなさんを中心に登下校の見守りをしていただいたおかげで、交通事故の未然防止に努めることができている。

★ 平均が「3.9」以下の項目

- ・ 5 学習規律の徹底を土台とした基礎学力の確実な定着（朝の活動の推進）
- ・ 8 生活の中にある差別や偏見をみんなで解決する力の育成
- ・ 9 言葉の大切さに気付き、相手の気持ちを考えた言葉遣いができる児童の育成
- ・ 13 自己の生き方を見つめ、生き方を考える道徳教育の推進

朝学習として、読書や辞書引き、タイピングなどの活動を行っているが、その意義や効果について再考すべきである。また、今年度、単級学年が6学年中4学年になり、学級担任の負担が大きくなっている。そのため「個別最適化された学び」や「個々に応じたきめ細かな指導」が十分実施できているとは言えない。

人権尊重の視点から見た課題として、児童同士の名前の呼び捨てや不適切な言葉使いがあげられる。道徳科の時間を要として、教育活動全体を通して指導しなければならない。そのためまずは教職員がその模範となる必要がある。教職員の意識統一をし、学校全体で一貫性のある指導を心掛ける。特に授業以外での言動や態度に関して、他者から見て、差別ととられてしまうようなことはないか自己を省みる習慣が大切である。

また道徳教育については、様々な道徳的観点について児童一人一人に自分事として捉えさせ、主体的に考えさせるために、教師がどう働きかけていくかが今後の課題である。

＜アンケートの考察（5件法）＞

- ☆ 平均が「4. 4」以上の項目 ※下線太字は1学期比でプラスの項目
- ・ 2 交通安全指導、生活安全指導の徹底及び安全な教育環境の整備
 - ・ 3 命を守る防災教育の充実
 - ・ 4 教職員の心身の健康状態の把握と働きがい意識の高揚
 - ・ 5 学習規律の徹底を土台とした基礎学力の確実な定着（朝の活動の推進）
 - ・ 17 ホームページ・学校だよりによる積極的な情報公開
 - ・ 18 登下校の見守り活動や学校のサポート体制の充実を目指した取組
- ☆ 1学期に比べて、大幅に向上した項目（0. 3P以上）
- ・ 3 命を守る防災教育の充実
 - ・ 8 生活の中にある差別や偏見をみんなで解決する力の育成
 - ・ 17 ホームページ・学校だよりによる積極的な情報公開

毎月のJアラートを用いた避難訓練だけでなく、児童・教職員に事前周知なしの抜き打ち避難訓練を行った。トイレに閉じ込められた児童や、パニックで動けなくなる児童の役割を6年生にしてもらい、教員が探しに戻るなど、実際の場面を想定した訓練を行った。

人権同和教育主任を中心に、教育活動全体を通して、差別や偏見の芽に気付き、見逃さない指導を続けている。また、養護教諭が保健室で応急処置をする際、人間関係などで気になることがあった場合、学級担任や管理職と報告・連絡・相談を密に行うことで、トラブルの未然防止に努めている。

学校だより（毎月・長期休業前）のスリム化により、教職員の負担は軽減した。児童・保護者としても、配布物が減り、情報量が最低限になったことで、分かりやすくなったと考える。

- ★ 平均が「3. 9」以下の項目 ※下線太字は1学期比でマイナスの項目
- ・ 9 言葉の大切さに気付き、相手の気持ちを考えた言葉遣いができる児童の育成
 - ・ 13 自己の生き方を見つめ、生き方を考える道徳教育の推進
 - ・ 15 基本的な生活習慣・食習慣の確立（早寝・早起き・朝ごはん）
- ★ 1学期に比べて、大幅に低下した項目（0. 3P以上）はなし。

一部の児童だが、大人への言葉遣いが気になる時がある。また、ゲームや動画の影響が大きいと考えられるのが、人の傷つく言葉を無意識に発してしまう児童がある。その都度、叱るだけで終わるのではなく、適切な言い方はどのような言葉なのか、具体的に教えて示すことが大切。

毎週1回の道徳科の授業を要として、教育活動全体を通して学習を続けているが、自己の生き方を見つめさせたり、考えさせたりする上で、十分満足できる指導ができているとまでは言い切れない。児童一人一人に自分事として捉えさせ、主体的に考えさせるために、教師がどう働きかけていくか、今後も研修を重ねる必要がある。

冬季に入り、起床が遅れることによる悪循環がある。養護教諭の作成した「元気アップ大作戦」を用いて、生活習慣の実態把握に努めている。それを元に、具体的な改善策を示しながら啓発を図るとともに、まずは十分な睡眠を確保するために、家庭でできることは何かを児童と一緒に考える機会を設ける働きかけが必要である。

教職員は、年間2回の大アンケート及び隔月の小アンケートを実施し、その結果を考察し共有しています。

また、毎週水曜日午後の全体研修や職員会議、毎日行っている終礼(16:20~16:30)で情報を交流し、より良い学校づくりに努めています。